

科目名	専門演習 I Seminar I						
科目担当者	矢鋪 渉 YASHIKI Wataru						
単位数	4	配当年次	2年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習]					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	<p>① 民法（民法総則・物権法・債権法）および不動産関係法について宅建士受験用テキストを使い、幅広い知識を身につける。</p> <p>② テキストの分野を約 10 頁ごとに分担して、担当者各自が事前に予習して解説をおこなう（レジュメを準備して解説することも可）。</p> <p>③ 定期的な演習に加えて、美術館を見学し、美術作品を鑑賞する。作成当時の時代背景や作者の考え方などを深堀する。</p>						
授業の到達目標	<p>① 民法および不動産関連法について宅建士試験合格レベルの理解力を身につける。</p> <p>② テキストはゼミの前後に必ず読み込み（黙読・音読）、演習で学習した所は、仲間に説明できる程度の理解力を身につける。</p>						
授業計画・内容	1	制限行為能力者制度 1（意思能力、行為能力）	16	条件・期限・期間計算			
	2	制限行為能力者制度 2（保護者・詐術行使）	17	不動産物権変動 1 と対抗要件			
	3	制限行為能力者制度 3（善意の第三者）	18	不動産物権変動 2（背信的悪意者・第三者）			
	4	意思表示 1（詐欺・第三者との関係）	19	相続と登記			
	5	意思表示 2（強迫・第三者との関係）	20	物権関係（共有・相隣関係・地役権）			
	6	意思表示 3（錯誤）	21	抵当権（成立・対抗要件・性質・効力の及ぶ範囲）			
	7	意思表示 4（虚偽表示）	22	抵当権 2（順位と順位の変更・共同抵当）			
	8	意思表示 5（心裡留保・公序良俗違反）	23	抵当権の実行と法定地上権			
	9	無効・取消・追認	24	抵当不動産の買主保護			
	10	代理 1（代理行為・代理権・自己契約ほか）	25	根抵当権			
	11	代理 2（復代理）	26	その他の担保物件			
	12	代理 3（無権代理）	27	保証・連帯保証契約			
	13	代理 4（表見代理）	28	根保証契約			
	14	時効制度 1（取得時効・消滅時効）	29	連帯債務			
	15	時効制度 2（時効完成猶予・更新・援用）	30	債権譲渡			
授業外学修 (事前学修)	① テキストで研究発表する範囲を予め熟読してゼミに参加すること。その際、音読をおこなう（1 時間）。						
授業外学修 (事後学修)	<p>② レジュメ、テキストを読み直し、論点を確認する（1 時間）。</p> <p>③ 課題(過去問題)について関係図を描きながら論点を理解した上で解く（1 時間）。</p> <p>④ 専門用語の意味をその他の民法テキストで確認する（1 時間）。</p>						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法			評価比率	到達目標との対応		
	①研究発表のレジュメのまとめ方発表態度による評価 ②発表者に対する質問力の評価			70% 30%	①② ①②		
成績評価基準	<p>秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	日建学院「どこでも学ぶ宅建士基本テキスト」2024 年、ポケット六法他						
参考文献	図書館で資料の活用方法を案内する。						
その他	民法の財産取引や家族関係の設問を解くとき、まず登場人物の関係図を描くことから始める。都合により欠席する場合はメール等で番号・氏名・理由を当日の午前中までに連絡すること。						